



2021年4月30日

各 位

会 社 名 マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 原 一将
(コード番号 3132 東証第1部)
問 合 せ 先 取締役 佐野 繁行
(TEL 045-470-8980)

通期連結業績予想の修正及び営業外費用の計上に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2020年11月2日に公表いたしました2021年3月期の通期連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正

(1) 2021年3月期通期連結業績予想数値の修正(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 522,000	百万円 14,550	百万円 13,800	百万円 8,600	円 銭 138.95
今回修正予想(B)	553,962	18,769	16,399	10,875	175.39
増減額(B-A)	31,962	4,219	2,599	2,275	
増減額(%)	6.1%	29.0%	18.8%	26.5%	
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	521,193	14,447	11,072	5,633	90.14

(2) 業績予想修正の理由

2021年3月期の通期業績予測につきましては、依然として新型コロナウイルス感染症の影響が継続しているなか、世界経済においては、ワクチンの接種が開始されており、特に中国や台湾では、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い企業活動や経済活動の正常化がいち早く進み、需要が回復しています。

このような中、集積回路及び電子デバイスその他事業におきましては、5Gやデータセンター、自動車の電動化に向けたFA機器、半導体需要の増加による半導体製造装置などの需要が増加しました。また、車載市場につきましても、年後半には着実な回復がありました。ネットワーク事業におきましては、継続する高度化したサイバー攻撃への対策やリモートワークの増加に伴うエンドポイントでのセキュリティ対策の強化により、引き続きセキュリティ関連商品やネットワーク関連商品の導入が進みました。またクラウドの利活用が進むことにより、クラウド関連商品が拡大しました。

売上高の増加に加え、利益面につきましても、新型コロナウイルス感染拡大防止並びに社員の安全確保のため在宅勤務やデジタル・セールス活動の継続により販売費及び一般管理費の抑制が続き、営業利益は前回予想を上回る見込みです。また、持分法による投資損失2,693百万円を計上したものの、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益も前回予想を上回る見通しとなりました。以上の理由により、2021年3月期通期連結業績予想を上記のとおり修正いたします。

2. 営業外費用（持分法による投資損失）の計上

当社の持分法適用会社である CrowdANALYTIX 社につきまして、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響等を受け、PoC（概念実証）などの案件数は増加しているものの、それらが予定通り実行できないなど、業績は計画通り進んでおらず、依然として厳しい市場環境が続いております。これに伴い、持分法による投資損失 2,097 百万円を計上いたします。この計上により、2021 年 3 月期連結会計年度において持分法による投資損失は 2,693 百万円であります。

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上